

# 「乱暴な論法」嘆く

## 平和に期待込める

多くの疑問を残したまま、安全保障関連法案が十六日、衆院を通過した。「絶対に必要な法案」と強調する安倍首相。国民の声を聴いて「諦めず廃案を求めたい」。成立へと突き進む与党への抗議活動はこの日も続いた。●面参照

### 安保法案衆院通過で県民の声

二〇一三年十一月の特定秘密保護法に続き、慎重審議を求める声を押し切つて、衆院で可決された安保関連法案。県民からは法整備による平和に期待を込める声上がる一方、「乱暴な極まりない論法」と、民主主義の危機を感じる意見も聞かれた。

美浜町久々子の声楽家、越前市朽飯町、会社役員

### 「9条壊すな」と抗議 国会前

「諦めない」「九条壊すな」。集団的自衛権の行使を可能にする安全保障関連法案が衆院を通過した十六日、夕方から夜にかけて、国会前には数千人の市民が集まり、抗議の声を上げた。集会は「戦争させない」

「諦めない」「九条壊すな」総がり行動実行委員会」が主催。仕事を片手に職場の同僚と来た川崎市の法律事務所職員、林美乃里さん(33)は「戦争させない」と書いた赤い紙を掲げ、「安倍首相は民主主義を無視している。国民の



安保関連法案が衆院を通過し、国会前で抗議する人たちの手によって掲げられるプラカード。16日午後

「戦争法案反対」など声を上げて歩く参加者。16日、福井市大手3丁目

情けない」と怒りをあらわにした。太平洋戦争でフィリピンに激戦地・レイテ島に出征した坂井市三國町緑ヶ岡四丁目、大森寛代男さん(53)の危機感は一層強い。「戦争の悲惨さを知らない政治家が強硬に安保法制を決めた。日本は「かつて通った道」を再び歩もうとしている」と、重い口調で語った。(安保法制取材班)

### 反対訴えパレード

福井市内で10人

集団的自衛権行使を可能とする安全保障関連法案に反対を訴えるパレードが十六日、福井市内で行われた。約10人が参加し、「戦争法案絶対反対」「民主主義を奪つな」など声を上げた。

戦争する国づくり反対県連絡会が実施。パレードの前に「平和・民主・革新の日本をめざす福井の会」の

(中場賢一)

市に住む筑波大学院一年の諏訪原健さん(23)は「国会で議論を尽くしたとはいえず、安倍首相は日本の代表として許されない。参院での審議に向け、廃案を求めてさらに活動していく」と決意を語った。

法案が衆院を通過した午後一時すぎにも、反対する市民の姿があった。台風11号の影響で時折強い雨が降る中、通過の知らせに「強行採決、徹底糾弾」「安倍政権は今すぐ退陣」と「1」を繰り返した。

松原信也事務局長が「この法案に対する怒りを込めて行進で意志を示したい」となると訴えた。

参加者は、福井市中央公園から西武福井店前まで約二キロを歩いた。「若者を戦争に送るな」「戦争法案強行採決許さない」など書かれたのぼり旗やプラカードを手に、支持を求めた。

参加した福井市内の主婦(33)は「この国を戦争のある国に変えてはいけない。絶対にこの法案を成立させたい」と力を込めていた。